

集配営業係の取り組み

安全運転管理体制の強化

営業課 集配営業係

はじめに

集配営業係の検体搬送業務では、集配車53台が市内だけでなく、大竹市や山県郡もまわっています。検体搬送に際しては、検体を破損させる急な運転操作（急発進、急ブレーキ、急ハンドル）や交通事故などを防ぐため、常に安全運転の意識と技術が求められています。

本号では、安全運転管理の取り組みの一環として2020年1月に『クラウド型安全運転支援システム』を導入しましたので、ご紹介させていただきます。

<当検査センターにおける安全運転管理体制>

安全運転管理者	3名(主1名、副2名)
安全運転研修会	2回/年、および事故発生時に適宜
運転免許証と違反履歴の確認	2回/年

1. 安全運転支援システム導入のきっかけ

(1) 導入前の問題点

日々安全運転を心掛けているものの、当検査センターの集配車の運転マナーについて、一般の方からクレームをいただくことがあります。その状況を迅速に確認するため、リアルタイムでの運転動画の収集・分析が必要と感じていました。

また、事故を起こしたドライバーに対しては、再発防止の教育および安全運転管理者が同乗しての指導を徹底していますが、これらは事後の対応になるため、事故を未然に防止する対策としては不十分でした。

そこで、上記の問題点を解決する目的で通信型ドライブレコーダーと運転技術分析ソフトの導入を検討しました。

(2) 導入により期待される効果

- ① 事故の減少
- ② 運転診断レポートを活用した運転指導により、危険運転(ヒヤリ・ハット)防止および運転マナーの向上
- ③ クレーム処理・事故処理の迅速化

2. クラウド型安全運転支援システムの概要

(1) 機能

通信型ドライブレコーダー

- ① 車両の危険な動きに対して警告音が鳴り、ドライバーの意識に働きかける。
- ② 安全運転管理者に危険運転を記録した映像データを送信する。

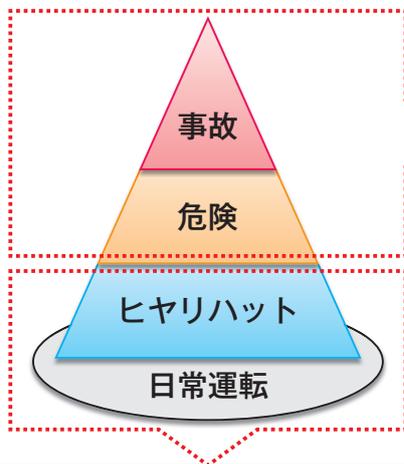


運転技術分析ソフト

- ① 個人ごとの運転診断レポートと診断ポイントを作成。
- ② 運転診断評価と危険運転数をもとにランキングを作成。



(2) 活用方法



クレーム・事故後の迅速な対応



車両の危険運転や事故などが発生した際の映像データを、安全運転管理者に送信。リアルタイムに映像を閲覧し、迅速に状況を確認して対応できる。

日常運転習慣の運転評価ランキングの掲示、個別指導



車両の危険な動きを感知・記録したデータの分析により、日常運転の習慣を可視化した運転診断レポートを作成し、運転評価ランキングを掲示。

車両の危険な動きが多いドライバーには、運転診断レポートを元に日常運転のクセについて改善を個別指導。

集合型研修会(ヒヤリハット動画を閲覧)の実施



車両の危険な動きを収集した映像データを使用して、安全運転の研修会を実施。

3. 導入による効果

(1) 事故件数の推移

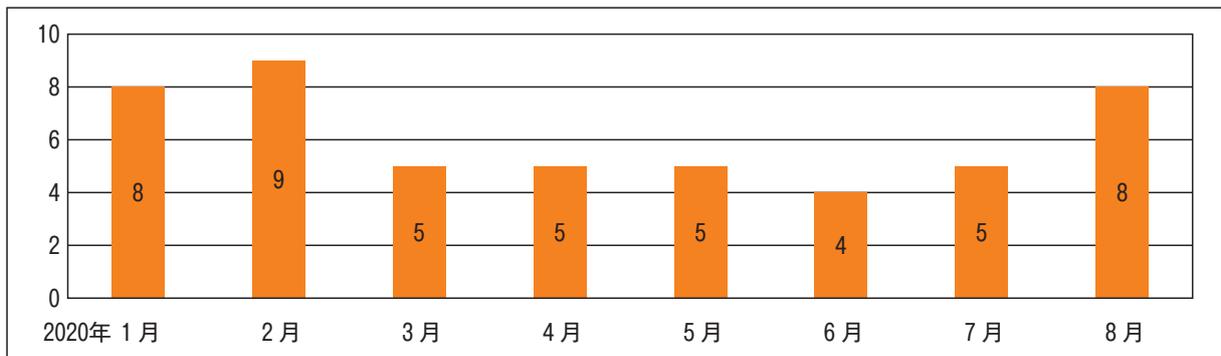
過去3年間は事故件数が増加傾向でしたが、導入後は大きく減少しました。

	2017年	2018年	2019年	2020年（8月まで）
車両(単独)事故	1	4	4	1
対物事故	5	3	3	2
対人事故	1	1	5	0
合計	7	8	12	3

↑ 導入

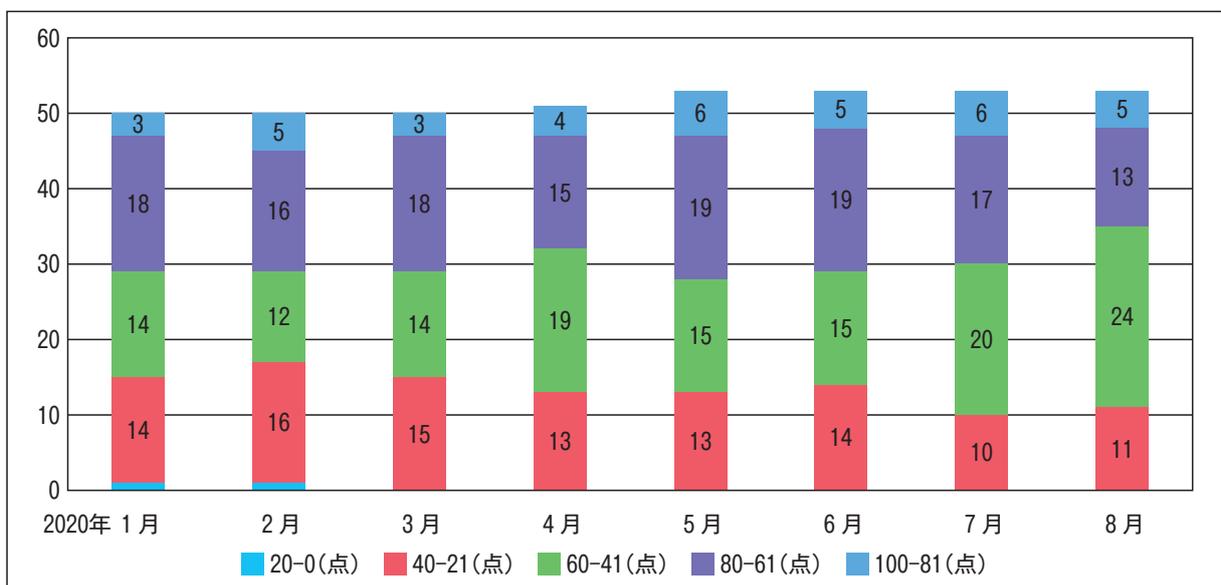
(2) 車両の危険な操作（急発進、急ブレーキ、急ハンドル）による警告件数の推移

開始当初よりも意識が定着し、全体的には急な操作が減少しました。8月に再び増加したため、全体への指導を行いました。



(3) 運転評価ランキングの推移

運転評価ランキングは月に1回掲示します。一般的に40点が合格ラインで、40点未満は診断レポートを返却し、20点未満は個別指導を実施しています。8月現在で40点以下は減少し、41点以上が増加しました。



4. ドライブレコーダー導入に対するドライバーの感想

(集配営業係員へのアンケートより)

(1) 車両の危険な動きに対する警告音機能について

- 警告音が鳴るため、早めにブレーキを踏んでスピードを落とすようになった。
- スピードはゆっくり、スムーズなハンドル操作を心掛けている。
- 警告音が鳴ると悔しいため、鳴らないように意識してスピードを落としている。確実に安全運転につながっていると思う。
- 習慣化され、業務外の普段の運転もスピードを出さないように変わった。

(2) 運転評価ランキングの掲示について

- 今まで運転を評価される機会がなかった。安全な運転をするうえで自分が改善しないとイケないポイントが分かった。
- ランキングが公表されることにより、自分の運転がどのレベルにあるか意識できる。
- ランキングを上げるために自分の運転に気を付けるようになった。

(3) ヒヤリハット動画の供覧

- ヒヤリハット動画の状況は、自分にも起こり得ると思って気を付けて運転するようになった。
- 他人がヒヤッとしたことを体験できる。今後も頻繁に取り扱っていただきたい。
- 自分の経験を他人に活かしてもらえる点が良いと思う。
- 危険を予知しながら運転する重要性を理解できた。
- 「だろー運転」ではなく「かもしれない運転」のケーススタディとなり、注意した運転ができる。

おわりに

『クラウド型安全運転支援システム』の導入によって、当検査センターが真剣に安全運転管理に取り組む姿勢を集配営業係員と共有できました。特に運転評価をランキングで見える化することで、一人一人の普段の安全運転の意識づけに繋がり、2020年1月～8月には対人事故が発生しておらず、大きな効果を実感しています。

また、集配担当者は常に集配時間も気かけながら集配業務を行っておりますが、至急集荷や臨時集荷の際は、到着までにお時間をいただく場合があり、心苦しく思っております。事情をご賢察いただき、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

担当：高磨 潤（営業課 営業推進係 係長）

*ウェブサイトでもご覧いただけます。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>